

兵庫教育大学附属図書館改革プラン

決定 平成 28 年 10 月 5 日 附属図書館運営委員会

附属図書館では、大学や図書館をめぐる状況の急激な変化に対し中長期的な視座をもって対応していくため、本学ミッションが再定義されたことを踏まえ、平成 27 年 10 月に[附属図書館の理念及び行動指針](#)を策定した。

この理念及び行動指針を踏まえつつ、附属図書館に関わる第三期中期目標の実現に向けた中期計画の着実な遂行が求められる。

附属図書館を取り巻く状況は、人員削減や資料購入費の縮減、電子ジャーナルの価格高騰等、年々厳しさを増している。平成 24 年に開設したラーニングコモنز PAO により、学内における附属図書館の存在感は高まったといえるが、これを一時的な流行に終わらせることなく維持発展させ、とりわけ中期計画 40 に掲げる「利用者数の 1 割増加」を実現するためには、少ない人的リソースを最大限に活用し、他部署や学生ボランティア等との連携・協力関係を築きながら、図書館運営上のさらなる工夫改善を図っていく必要がある。

また、デジタルコンテンツの増加やネットワーク型のコミュニケーションの進展に伴い、学術情報流通の一翼を担う大学図書館の役割も変化を求められており、ILL や目録、閲覧等従来の基幹業務のあり方も見直しが求められている。

このような課題を踏まえ、第三期中期計画をスタッフが一丸となり着実に遂行していくために、以下のとおり行動指針に沿った改革プランを策定する。

(1)Collect

教育実践学及び教養向上に資する資料・情報を重点的に収集・整理するとともに、そのアクセシビリティの向上と利用促進を図る。

- ① 平成 17 年度策定の資料収集方針について、デジタル化の進展や予算の縮減等の現在の状況を踏まえ、購入方法等も含め見直しを図る。
- ② 現行の電子ジャーナル、データベースの購読規模の維持に努めるとともに、電子ブック等の電子リソースのさらなる整備充実を図る。

- ③ 現行の選書体制を見直し、書店提供の資料選定システムの利用等、学生・教員・図書館員が効率的かつ円滑に選書を行えるしくみを整備する。
- ④ 図書館利用説明会の方法の見直し、OPACの機能強化、資料の企画展示や関連イベントの開催等を通じて、図書館蔵書の利活用促進を図る。

(2)Connect

学生・教職員との連携・協働のもとに、人と本、人と情報そして人と人をつなぐ創意工夫を最大限に発揮し、知的で活気に満ちた学習コミュニティの醸成に努める。

- ① 教員や学生、事務組織との連携を強化し、授業やセミナー、文化イベント等の企画を拡充する。
- ② 教員、学生、留学生、事務組織と連携しながら、学生の英語能力向上に資する各種のイベント等の企画開催を通じて、異文化理解、グローバルな繋がりを促進する。
- ③ グループラボ・パーソナルラボ・ライブラリーホール等各室の予約・利用状況の表示等利便性向上を図り、学生・教員による学習・研究・授業等の利用を促進する。
- ④ 人と本との魅力的な出合いを演出するため、蔵書の展示企画やポップなどを多用した書架空間の演出に努める。
- ⑤ 学部生の利用者増加策の一環として、学部生と大学院生の交流を促すカフェや読書会等のイベントを学生ボランティアの協力のもとに積極的に開催する。

(3)Contribute

地域における生涯学習の一拠点として、市民に開かれた図書館となるとともに、本学における教育と研究の成果を学校現場はじめ広く社会に還元する活動に真摯に取り組む。

- ① 読み聞かせ講習会や読書会を行う等、一般市民や地域の学校との連携・交流を推進するための事業・イベントを積極的に企画・開催する。
- ② 市民からも評価の高い教材文化資料館の展示事業を継続するとともに、その広報活動を活性化することにより、来館者数の増加に努める。
- ③ オープンアクセス義務化の体制を検討していくことを踏まえ、教員が簡便に教育研究成果をリポジトリに登録することができるようシステムの改良を行う。

(4) Challenge

大学や社会を取り巻く状況の変化に柔軟に対応し、学生・教職員のニーズを不断に捉えながら図書館の既成概念にとらわれない多様な学びの場づくりに挑戦しつづける。

- ① 学生との連携を強化し、彼らのアイデアを積極かつ柔軟に取り入れながら、図書館が魅力的な「コト」体験の場となるよう、事業・イベントコンテンツの量的拡大を図る。
- ② 快適な図書館として利用機会を増やすため、全館規模で飲食ポリシーの見直しを図る。
- ③ 現行の情報リテラシー教育（図書館利用説明会や出前授業）のあり方を見直し、教員と連携しながら、デジタル教材を含めた新たな情報リテラシー教育の可能性について調査研究を進める。
- ④ ボクブックプロジェクト等、図書館の既成概念にとらわれないユニークな事業を機動的に行える当館の強みを生かし、図書館改革に資する先端的かつ普遍性のあるプロジェクトを企画立案し、科学研究費補助金、企業財団等の助成金等の外部資金の獲得を目指す。
- ⑤ 学生・教職員のニーズを把握するため、定期的にアンケートを行うとともに、利用統計をより詳細に分析する。